

本校における薬物乱用防止教育

～薬物乱用防止教育と生徒会による取組～

鹿屋市立鹿屋東中学校
養護教諭 平山 恵美
養護教諭 遠矢 真由

1 はじめに

本校は生徒数951人、学級数30学級、職員数63人の大規模校である。学校教育目標は「向学の意気に燃え、心身ともに健康で、たくましく生き抜く生徒を育成する。」である。

鹿屋市の中心街を校区とし、学校の雰囲気は明るく活気があり、生徒は授業や部活動、生徒会活動、各行事に懸命に取り組んでいる。ここ数年、喫煙や飲酒等の生徒指導事案はなく、落ち着いた学校生活を送っている。

2 主題設定の理由

薬物乱用が社会問題化している昨今、一人一人が薬物乱用と健康との関わりについて早い段階から認識し、適切な行動選択と意志決定ができる資質と能力を身に付けることが求められている。本校では、喫煙や飲酒、薬物乱用を始めさせないため、有害性や危険性の知識、規範意識だけでなく、「生きる力」に必要なライフスキルの基盤となる自尊感情や対処能力等も身に付けられるよう教科横断的な指導を行っている。

3 取組の実際

(1) 薬物乱用防止教室（学級活動1時間）

毎年1年生を対象に学校薬剤師による講話を実施している。

ア 薬物乱用防止教室の流れ

過程	時間	指導内容
導入	5分	講師紹介及び学習の目的と内容の説明
展開	35分	スライド視聴及び講話 ＜薬物の害について＞
終末	10分	まとめ、生徒代表お礼の言葉、感想記入

イ 講話の内容

＜誘われないような自分になるには＞

- ① 規則正しい生活をして社会のルールを守る。
- ② 気になることは家族や先生に相談する。
- ③ 嫌なことはハッキリ断る勇気をもつ。
- ④ 自分が大切に思う人、自分を大切に思ってくれる人のことを考えてみる。

まとめ

- ① 薬物を1回使うだけでも乱用である。
- ② 薬物乱用は心も体もボロボロにする。
- ③ 薬物の乱用は犯罪である。



【薬物乱用防止教室の様子】

ウ 生徒の感想

- 薬物を1回でも使用したら「乱用」になり、市販されている薬でも使い方を守らなければ「乱用」になることを知った。
- 「乱用」すると脳細胞が破壊され、一生元に戻らないと聞いて怖かったし、やめられなくなるので、絶対にしたくない。
- 「私には関係ない」ではなく、自覚をもって行動し、自分を大切にしたい。

※ 授業後のアンケートでは、7割の生徒が「よく理解できた」と回答した。

(2) 生徒会の活動

ア 文化祭での取組

保健委員会の生徒が、文化祭において『NO DRUG KNOW DRUG!』と題し、広幅用紙に乱用薬物をまとめ、生徒や保護者へ薬物の恐ろしさを伝えた。また、薬剤師会から借用した薬物標本を見た生徒からは「絶対に手を出したらいけない」等の感想があった一方で「どんな味がするのだろう」等の声も挙がっていた。



【文化祭展示の様子】



【薬物標本をみる生徒】

イ 薬物乱用防止に関する質問募集と学校薬剤師へのインタビュー

薬物乱用に関する質問を募集し、その中からいくつかの質問に対して、学校薬剤師の先生に回答していただき、その様子（動画）を各学級で視聴した。

＜主な質問＞

- 1回の使用でも薬物中毒になるのか。
- 薬物をどのようにして入手しているか。
- 中学生が薬物乱用をしたらどうなるか。
- 薬物乱用をした人の中で、依存症から回復する人はどれくらいいるか。

ウ 薬物乱用防止に関する標語募集と表彰
保健委員会の生徒が薬物乱用に関する標語を募集し、優れた作品を表彰、掲示を行った。

エ 新聞記事の紹介

保健委員会の生徒が保健に関する新聞記事を紹介している。



【NIE保健版】

(3) 薬物乱用防止Q&Aの作成

薬物乱用問題に関心をもたせ、知識の定着を図るため、ロイロノート内にクイズを作成、生徒が閲覧し回答できるようにした。

第2問

大麻や覚醒剤などは1回使用しただけでは、乱用にならない
(正解：×)

第2問の解説

大麻、覚醒剤などの違法な薬物はたとえ1回の使用であっても乱用になります。

覚醒剤

大麻

MDMA

【資料：大阪府健康医療部生活衛生室業務課】

(4) 保健体育科(保健分野)の授業

スライド教材や動画を使用しながら、薬物乱用の心身への害と社会への悪影響等を理解させ、断り方等を考えさせた。

学年	題材名 (各1時間)
1年	自己形成
	欲求やストレスへの対処
2年	喫煙と健康
	飲酒と健康
	薬物乱用と健康
	喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ

(5) 構成的グループエンカウンター

幅広いライフスキルを身に付けるとともに、自己肯定感を高め、望ましい行動選択ができるよう構成的グループエンカウンターを全学年、年間6回、実施した。

＜学期ごとの組み立て (各1時間)＞

- 1学期：肯定的で対等な関係をつくる。
- 2学期：自己への気付きや自己肯定感を高め、学級集団として深い関わりを持ち、他者の良い所に気付ける。
- 3学期：自己の内面にある可能性を探索し自己表現を高める。

(6) 保健便り (家庭との連携)

薬物乱用防止教室の感想、世界禁煙デーでの未成年の喫煙防止、冬期休業前の未成年の飲酒防止、危険ドラッグとSNSに潜む危険性等を取り上げ、大人の管理と見守り、親子の対話の重要性等を啓発した。

(7) 保健室前の掲示物

生徒に興味関心を持たせるため、実際に触れて学べる工夫をしている。



【喫煙に関する掲示】

(8) その他の取組

- ア 長期休業前の生徒指導と学級PTA
- イ 3年生情報モラル教育講演会
- ウ 教育相談
- エ 学校運営連絡協議会 等

4 成果と課題

外部講師を招聘し、専門性を生かした効果的な指導を実施できた。また、生徒から生徒へ情報を発信することで、より自分事として捉え、主体的に考えることにもつながった。

今後も全職員が共通理解のもと、効果的な指導となるよう保健体育科や特別活動、総合的な学習の時間、道徳科等の教科横断的な計画を継続して実践するとともに、学校と家庭、地域社会、関係機関とさらに連携を深め、全教育活動を通じた薬物乱用防止教育を推進していきたい。